

モスクワの大規模都市開発「メトロポリア」計画に参画して

菅川 健二

ロシアといえば、われわれの世代の多くは、シベリア抑留、北方領土問題、暗殺とマフィア、物資不足でがらんとしたスーパー等々暗く閉ざされた北の大陸を思い起こすに違いない。その上、私は、大連に生まれ幼少時代を過ごしたものとして、終戦間近かに侵攻してきたソ連兵の粗暴な振る舞いを決して忘れることができない。

ところが、ここ1年の間に期間は短い、3回にわたりモスクワ、サンクトペテルブルグ等を訪問し、ロシア人と交流を深めるにしたがって、ロシア大好き爺さんとなったのである。

私がロシアとのご縁が始まったのは、4年前にさかのぼる。ロシアで証券投資事業を営む青年実業家S氏がロシア極真空手道連盟の会長となり、日本に訪れた。その際、東京にも事務所を設け、ロシアと日本の経済交流を促進したいとの意向を聞き、私もそれに共鳴し、お手伝いすることとなったのである。彼は、大の日本びいきで空手等のスポーツはもとより、日本の歴史や伝統文化、そして何よりも刺身、寿司、しゃぶしゃぶ、ラーメン等日本の食べ物が大好きである（多くのロシア人もそうであるが）。ビジネスの分野においても、誠実な日本人を信頼しており、日本の優れた技術の導入と経営管理の手法を取り入れたいと願っている。

幸い、ロシアはプーチン政権になって政治は安定し、石油資源等の高騰もあって経済は急速に成長し、国民の消費生活も豊かになり、日本の経済界の関心も急速に高まってきている。この5月にメドベージェフ政権が誕生するが、政治経済情勢は変わらないとみられている。

これらを背景にして、S氏の本業の証券業については、1昨年、日本の証券会社とタイアップしてルーブルファンドの組成と販売を行い、この2月から日本でのロシア株のインターネットトレードを開始した。

更に、このたびモスクワの都心に23ha（東京の六本木ヒルズと東京ミッドタウンを合わせた面積）に人口8万人のオフィス、ホテル、商業、レジャー、住宅の複合拠点都市「メトロポリア」を建設することとなった。ついては、この整備も、ぜひ日本の建築技術を導入したいとの意向があり、私が日本での最高の設計技術を持つ（株）日建設計にマスタープランを策定することを推薦したところ、昨年末に双方が合意し、この3月にはその成果物をフランスのカヌで開催されたM I P I M（国際不動産見本市）に出展したところである。私もカヌに同行したが、この見本市は、日本を含む88カ国から約9千社が出展するという大規模なもので、その中でも斬新なプランとして好評を得たところである。なにぶん総事業費4000億円に上る大事業であり、今後、多くの困難な課題が予想されるが、順調に進捗すれば、5年後には完成の予定であり、日露合作によるランドマークタワーが聳えることを期待している。



会員の皆さんも、ぜひ変貌を遂げつつあるモスクワを一見されることをお勧めする。2-3年後には「メトロポリア」のホテルにぜひご案内したいと思う。

（広島大学マスターズ通信第11号より）